

## 名古屋圏 離れる若い女性

11月25日の朝日新聞「人口減につぼん 移り住む人々」で、件の記事が1面社会面に掲載された。「リニアシンポジウム」にも関係する記事だ。報告にも使いたいので、とりあえずレポートに書いておきたい。

写真上はビジネス講座「ママ大学」で話し合う女性たちである。「大学」は、名古屋圏でコンサルティング会社を営む大洲早生李さんが運営。地元で働きにくさを感じてきた大洲さんは、名古屋圏について「ものを作ってなんぼの社会。サービス産業を受け入れる土壌がない」と厳しい。

みずほ総合研究所の岡田豊主任研究員は「製造業中心に全国から若い男性が集まるが、女性の雇用の場としては見劣りする」と話す。

東海3県の転入超過数は、総務省によると去年は男性が約2千人、女性はマイナス約2160人。最も鮮明になのが20~24歳で、この年齢層だけで男性約2900人、女性マイナス約260人になる。

下の写真の年齢層別の折れ線グラフでは、20~24歳で男性の転入超過が突出する一方、女性は谷だ。就職の時期、「ものづくり」の名古屋圏に男性は集まり、女性は離れる傾向がはっきり見てとれる。

一方、東京圏は膨れる。4都県への今年の転入超過は男性約4万2千人、女性約5万4千人。20~24歳の女性は約3万人で、マイナスの名古屋圏とは対照的だ。名古屋圏から東京圏への移動は、去年は差し引きで8173人。1995年の3.5倍になっている。

名古屋圏からの移動は、今後増えるかもしれない。理由の一つが、東京-名古屋を40分で結ぶリニア中央新幹線だ。岡田主任研究員は、「ストロー効果」で名古屋圏の雇用が縮むことを懸念。「東京が通勤圏となり、企業は支店を縮小するだろう。商業も東京圏との本格的な競争になる」とみる。こうした人口動向も踏まえて、「リニア・インパクト」をどう考えるか、今日のシンポジウムで議論してみたい。

(2014年11月29日)

